

# 上映映画解説

1953, 6.27 - 7.31

国立近代美術館 フィルム ライブラリー



No. 8

## フィルム・ライブラリーについて

国立近代美術館では、設立以来同館内に定員約百名の映写室をもつ、フィルム・ライブラリーを設け、内外古今の優秀映画の収集保存ならびにその活用について努力いたしております。

今回は「近代彫塑展」の期間中、彫刻に関連して、次の映画の中適宜選択して、毎日二回上映いたします。

### 法隆寺の彫刻

一巻

監修 小林 剛  
製作 日本映画社

我が国に残っている仏像彫刻で一番古いものは飛鳥時代の作品です。この時代には仏教文化の流入によって大きなお寺が盛んに作られ、同時に仏像もたくさん製作されました。その一つである法隆寺は世界最古の木造建築として重要な寺であるばかりでなく、その建築の内部には金堂の釈迦三尊をはじめ、薬師如来像、夢殿救世観音像、百済観音像などの偉れた飛鳥時代の仏像彫刻が安置されています。

ことに釈迦三尊像は光背にぎざまれた文章によつて推古天皇の三十一年に止利仏師によつて製作されたことがわかるので、我が国の上代彫刻をさぐるための貴重な遺品となっております。

また法隆寺には飛鳥時代の作品ばかりでなく白鳳・奈良・平安・藤原・室町・江戸の各時代の彫刻がたくさん保存されています。我が国の美術史上非常に大きな価値をもつています。この映画には止利様式の仏像から百済観音、中宮寺観音と出て来ますが、きびしう莊重なものから崇高なものへ、崇高なものから親愛なものへと展開していくありさまも同時に自然に看取することができます。

### 上代彫刻 二巻

企画 国立博物館  
製作 村山 英治  
脚本 千沢 貞治  
演出 水木 庄也  
撮影 永塚 一栄  
音楽 早坂 文雄

この映画は飛鳥・奈良時代の仏像彫刻に関する記録映画です。

日本の彫刻は「はにわ」にはじまり、仏教の伝来と共に大陸のすぐれた彫刻の技法を伝え、急激に発達しました。映画は先づ最も初期の作品としていくつもの「はにわ」を紹介し、次に大陸文化とのつながりを理解しながら、飛鳥時代の代表として法隆寺金堂の本尊釈迦如来三尊、夢殿の救世観音等、白鳳時代(奈良前期)を代表するものとして鶴林寺の聖観音、法隆寺の夢遊観音等、ついで天平時代(奈良後期)の東大寺の大仏、三月堂の執金剛神、戒壇院の四天王、興福寺の阿修羅等の諸像を觀賞し、最後に天平の肖像彫刻を紹介しています。

### 日本の麦

三巻

日本映画新社 共同製作  
日映学芸映画製作所  
監修 農 林 省  
製作 藤本 修一 郎  
監督 桑 野 茂  
撮影 尾山 新 吉  
特殊撮影 鈴木 喜代 治

八百年来米と共に日本の食問題を支えて来た麦は、どの様にして収獲されているのでしょうか。西洋と違って日本では米を主食とするので、麦はいわゆる裏作となつていて、同じ畑で、稲→麦→稲→麦と循環して作られています。

この映画は、麦の種子まき前から、成長、収穫と日本の麦作りの行程を説明しています。顕微鏡レンズや微速度カメラを畑に持ちこんで、詳細に麦の生態を写し、土壌や肥料や気候の問題にも触れています。理科の教材や農業の参考となるばかりでなく、麦が収獲されるまでの農民の労苦を伝えながら、非常に集約的な日本農業の性格を認識させます。

### 大同石仏寺

一巻

雲崗の石窟は中国山西省の大同から西に約十三軒、武州川北岸の岩壁に掘られたもので、大小の石窟が蜂

の巣のようにならんでいます。この地点はむかし北魏の都盛楽城と、首都平城(大同)とを結ぶ大切な交通路にあつたつていたので、最初の石窟は大武帝(四二四―四五一)の在位中中国の第一回の有名な彫像によつて壊れてしまい、現在の大石窟は文武帝(四五二―四六五)の御代に、亡くなった四帝と今帝のために国力を傾けて造営したものだといわれます。以後孝文帝が(四九四年)洛陽に遷都して、龍門の石窟を営むまで、引きつづいて多くの石窟が造られました。

窟内の仏像は、初期のものはガンダーラやグプタ様式の影響が深く、盛期の作品は中国風で、北魏仏あるいは六朝仏と呼ばれる様式の典型を示し、それらはまたわが国の飛鳥仏にも大へんよく似た姿を示しています。なおこの石窟は仏像ばかりでなく建築様式や装飾意匠についても注目すべきものがあり、伊東忠太氏をはじめ世界中の多くの学者がその重要性を指摘し、現在もいろいろと調査が続けられています。

マイヨール Maillois 一巻  
フルデル Bourdelle 一巻  
日仏学院提供

木彫のつくり方 二巻  
Direct Carving in Wood  
アメリカ大使館提供

彫刻の材料には、石、木、鋳銅、石膏、粘土それに最近ではセメント等があります。木彫をつくる場合、石膏、粘土等で原型を作つてから木に写し彫る場合もありますが、この映画は、木材に直接のみで彫りつける木彫のつくり方を記録したものです。

米國ベルモントのペンギントン・カレッジ美術部のマセルシオ・スタジオで製作され、原材を万力(まんりき)にはさまみ、チョークで(日本では墨や朱墨等)簡単な線を描きながら彫つて、段々に形を整える過程や、細いのみを使って細部を仕上げる有様が刻明に撮られています。

使われているのみや槌の形や使い方は、日本の場合と多少の相違があるようです。(一六ミリ)